

# 兼業・多業農家

を育てる



# 里山技塾と銀寄バンクで 兼業・多業農家が クリ山を引き継ぐ

伊藤雄大（大阪府能勢町・里山技塾事務局）

## 里山の副業だった「能勢栗」

農村は副業の宝庫です。

私が6年前に移り住んだ大阪府最北端の町・能勢町は、大阪市内のイメージとはかけ離れた「里山の町」です。農業や林業はもちろんのこと、炭焼きやカヤ刈り、原木シイタケ栽培、寒天や凍り豆腐の製造などなど、里山資源を活かした仕事が豊富にあります。ここで暮らしてきた昔の人は、風情のある季節労働を本業に組み合わせて生計を立てる「百

姓」でした。

能勢町でもっともポピュラーな副業が秋の味覚「能勢栗」です。能勢栗の歴史は古く、江戸時代の飢饉から町民を経済的に救ったという大粒品種「銀寄」<sup>よせ</sup>発祥の地であり、200年以上たった現在でも銀寄を看板とした能勢栗の人気は衰えていません。どの家にもクリが数本は植わっており、収穫期の9〜10月になると、いろんな人たちが地元の直売所などにクリを並べ、秋のボーナスとしています。

ところが生産量という点、1980年の413



里山技塾・クリ栽培講座  
の受講者のみなさん

